―追 悼―

弔 辞

成相秀一さんは1990年12月5日午前9時，竹原市のご自宅において永眠されました．日本の宇宙論研究の先達としてこの道の発展に尽くされた成相さんの偉業を思いますと，享年66歳はあまりにも早い旅立ちであり，悲しみに耐えません．

成相さんは大正12年，島根県の大社町でお生まれになりました．昭和22年9月に東北帝国大学理学部物理学科を卒業され，東北大学において6年間の重力理論，宇宙論に関する研究を進められたあと，広島大学理論研究所に転じられました．昭和48年4月に宇宙論部門の新設にともなって教授に就任され，広島大学評議員，理論物理学研究所の所長をご歴任の後，昭和62年3月に停年，退職されて広島大学名誉教授となられました．その後も研究のまとめや，後輩の指導などにお忙しい日々と伺っておりましたが，しばらく前から体調を崩されたご様子に，私どもも心配しておりました．まだまだ これからのご活躍をと念じておりましたのに残念でなりません．

成相さんは専門分野でのご研究とともに，日本天文学会の活動を通して，日本の天文学の発展にも大きく寄与されました．昭和28年から2年間の中国・四国支部の支部理事をその初めとして，昭和43年から同55年までは，12年の長きにわたって天文学会評議員を務められました．昭和52年から同54年には大塚奨学金選考委員会委員も務めておられますが，とくに，昭和50年から52年までは日本天文学会副理事長として天文学会の運営にあたり，その重責を果たされました．天文学会として思い出に残るのは昭和59年10月に竹原市において開催された秋季年会であります．成相さんの還暦を記念するという意味もありましたが．この年会は宇宙論に関する二十数編の論文が報告されるなど，日本における宇宙論研究がようやく大きな盛り上がりを見せ，世界における日本の宇宙論が着実な歩を進める中で開かれた学会として，成相さんにも思い出が残ったのではないでしょうか．

成相さんが東北帝国大学を出られて研究を始められた，昭和20年代の初期は日本で宇宙論を専攻する研究者はまだまだ少なく，成相さんご自身も言っておられたように，その道は殆ど一人で切り開くような状態でありました．そのなかで，成相さんは一貫して宇宙論の研究に専念され，その業績は単に100編を越える研究論文となって現れているだけでなく，若い研究者を育て，日本における宇宙論の研究グループをそだてあげたところにも大きく現れております．そのことは成相さんが還暦を迎えるにあたって広島大学理論物理学研究所が「重力と宇宙」という研究報告書の特別号を刊行していることでも知ることができます．この特集号は成相さんの業績をたたえる献辞とともに，成相さんの40年にわたる研究の発展が概観できるよう，主要な論文を収めております．この特集号を見ながら，私どもは成相さんとしてもまだやりたいことがたくさん残っていたろうし，私どもとしても，日本の宇宙論の発展のためにまだまだ成相さんにやって載きたいことがたくさんあったと思うのであります．日本の観測的天文学もようやく宇宙論的課題に取り組もうとしているとき，理論的研究の第一人者を失ったことは日本天文学会にとっても大きな痛手であり，痛恨に堪えません．

ここでひとこと私事にわたることをお許しください．成相さんとは成相さんがまだ仙台におられた頃からの長いつき合いであります．専門分野が違ったため，仕事の話は余り出来ませんでしたが，成相さんは三年ほど後輩であった私にとってはいわば気の許せる兄貴のような存在でした．会えば一緒に酒を飲んで日本の天文学の現状を論じたり，人物論を展開したり，といった話題が広がり，といっても成相さんのご意見を拝聴することの方が多かったのですが，妙に気があって楽しい時間を過ごしたり致しました．しかし，もうそんな機会もなくなってしまったかと思うと心のなかに寂しさの沸き上がるのを抑えることが出来ません．

成相さん，あなたの旅立ちはご家族の方々のみならず，日本天文学会にとっても，多くの研究者にとっても，また，私にとっても，深い悲しみであり，大きな痛手であります．しかし，どうか安らかにお眠り下さい．わたくしたちは悲しみを越えて，日本の天文学を前進させ，あなたが夢みた観測と理論の融合した日本の宇宙論が大きく花を開く日まで努力することをお誓いします．

成相さんとのお別れに際し，日本天文学会を代表して，ここに謹んでご冥福をお祈りいたします．

1990年12月7日

日本天文学会理事長　小暮智一